

札幌市円山動物園 基本計画

Sapporo Maruyama Zoo master plan

草 案

このたび、第2回市民動物園会議に提案しました「札幌市円山動物園基本計画（案）」は、先に策定しました「札幌市円山動物園基本構想」に基づく実施計画（案）で、19年度末策定を目指して現在作業中のものです。

したがって、今回は検討中の素材を会議に提案しておりますので、今後、ソフト事業の枠組み、配置イメージ図、整備計画など基本計画の内容を変更する可能性があることをご理解願います。

平成 20 年〇月
札幌市円山動物園

1. 基本計画の考え方

この基本計画は、2007年（平成19年）3月に策定した基本構想に基づく実施計画（アクションプラン）の位置づけである。

施設整備に関しては、施設老朽化に伴う長期の整備計画が必要なため、概ね10年間の長期計画となっている。

ただし、開園60周年となる2011年度までについては、集中取組期間と位置づけ、第2次札幌新まちづくり計画（2007～2010年度）との整合性を保ちながら、より詳細に記載している。

なお、2011年以降についても次期まちづくり計画と整合性を持ちながら進める。

2. 経営環境の変化に伴う計画の修正について

この計画は、2007年時点の経営環境をベースに策定されたものであるが、札幌市の財政状況や原油価格の高騰、地球温暖化の影響など様々な外的要因によって常に実現可能性の検証が必要である。

よって、毎年度の財政状況や園の収支状況に応じて、柔軟に計画年次等を変更することが想定されるが、あくまでも基本構想の理念の達成に向かって取組を継続するものである。

<凡例>

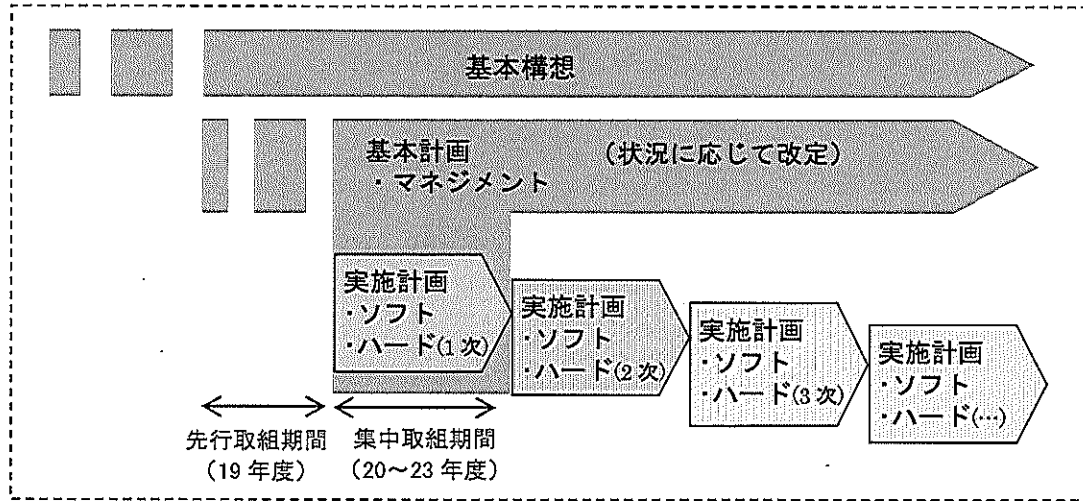
「役割」の欄

- 1：札幌市の環境教育の拠点
- 2：北海道の生物多様性確保の基地
- 3：多様なメッセージを発信するメディア

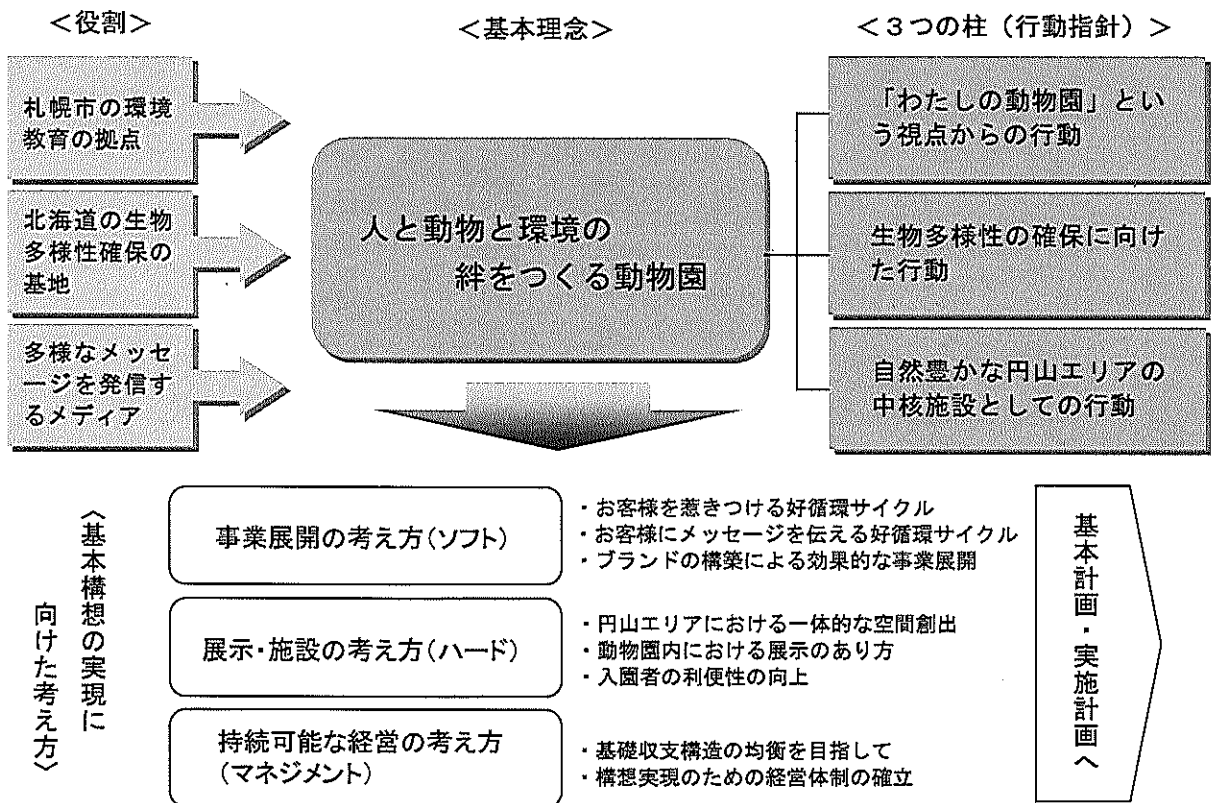
「行動指針」の欄

- 1：「わたしの動物園」という視点からの行動
- 2：生物多様性の確保に向けた行動
- 3：自然豊かな円山エリアの中核施設としての行動

○基本構想と基本計画の位置づけ



○基本構想の構造図



目 次

I. 「円山動物園の役割と行動指針」編

1. 札幌市における円山動物園の役割(1) 札幌市の環境教育の拠点	
(1) 環境教育プログラムの策定	1
(2) アースデイの開催	2
(3) 環境メッセージを伝える展示・看板・広報の充実	3
(4) 環境教育に携わる人材育成の拠点活動	4
(5) 園内動物病院プログラム	5
(6) 園内施設の環境教材化の取り組み	6
(7) 環境を考えるイベントの実施	7
(8) 遊びながら環境教育につながる教材の活用	8
(9) 円山レッドデータの編さん	9
(10) 展示評価方法(円山評価法)の確立	10
2. 札幌市における円山動物園の役割(2) 北海道の生物多様性確保の基地	
(1) 北海道の野生動物復元プロジェクト	11
(2) 種の保存に向けた絶滅危惧種の園内繁殖	12
3. 札幌市における円山動物園の役割(3) 多様なメッセージを発信するメディア	
(1) 心の癒しを必要とする方へのアニマルセラピー効果の実証	13
(2) 障がい者福祉のメッセージを発信するイベントの実施	14
(3) 子育て支援のメッセージを発信するイベントの実施	15
(4) 生き生きとした高齢化社会のメッセージを発信するイベントの実施	16
(5) 札幌の観光とものづくりを発信するイベントの実施	17
(6) 市民芸術文化のメッセージを発信するイベントの実施	18
(7) 市民ボランティアの発信	19
(8) 札幌のものづくりを発信するオリジナルグッズの開発	20
4. 3つの柱(行動指針1) 「わたしの動物園」という視点からの行動	
(1) アニマルファミリー制度	21
(2) 感動体験型展示(みんなのドキドキ体験)の実施	22
(3) 北海道ゾーンの展開	23
(4) 市民参加の機会の拡大	24
(5) 産学官連携の拡大	25
5. 3つの柱(行動指針2) 生物多様性の確保に向けた行動	
(1) オオワシ国際シンポジウムの開催	26
(2) オオワシ・プログラムの取り組み	27
(3) オオムラサキ・プログラムの取り組み	28
(4) ニホンザリガニ・プログラムの取り組み	29
(5) 生物多様性を身近に感じるための特別展・体験プログラムの実施	30
6. 3つの柱(行動指針3) 自然豊かな円山エリアの中核施設としての行動	
(1) 円山エリアの総合的な交通対策の検討	31
(2) 円山川の自然を取り戻すための取り組み	32
(3) 円山エリアの総合的な自然エネルギー活用を検討	33
(4) 円山エリア活性化のための街歩きイベントの実施	34
(5) 地元地域への感謝イベントの実施	35
(6) 大倉山シャンツェ・彫刻美術館との連携	36
(7) エリア周遊イベントへの積極的な参画	37

Ⅱ.「経営戦略とソフト事業」編

7. 持続可能な経営の考え方(経営戦略)	
(1) 入園者数100万人に向けた集客の取り組み	38
(2) 経常的収入倍増に向けた取り組み	39
(3) 経常的支出30%削減に向けた取り組み	40
(4) 基本構想を支える経営体制の確立	41
8. 事業展開の考え方(ソフト事業)	
(1) 季節を感じさせる積極的なプロモーション展開	42
(2) 夜の動物園のプロモーション	43
(3) 冬の動物園のプロモーション	44
(4) 提案型イベントによる新たな魅力の開発	45
(5) 宿泊体験型イベントの実施	46
(6) 大人向け体験イベントの実施	47
(7) 新規イベントによる新たな客層の開発	48
(8) シニア層を対象とした市民参加型イベントの開発	49
(9) 親子向け体験イベントの実施	50
(10) 都会の癒しの場・レストスペースの創設	51
(11) 観光ツアーの誘致提案	52
(12) Webを活用した新たなプロモーションの展開	53
(13) 新たなメディアを活用したプロモーションの展開	54
(14) 教材ワークブック開発による小学校の総合学習誘致	55
(15) 修学旅行誘致の拡大	56
(16) 市民ボランティアの活動分野の拡大	57
(17) 動物の魅力をより深く伝えるための取り組み	58

Ⅲ.「施設整備と動物管理」編

9. 展示・施設の考え方(施設整備と動物管理)	
(1) 段階的展示導入方式(円山メソッド)の確立	59
(2) 環境エンリッチメントの推進	60
(3) 園内の総合的なデザイン	61
(4) 円山地域整備	62
(5) 北海道・北方圏ゾーン建設	63
(6) 野性復帰・自然体験ゾーン建設	64
(7) 爬虫類・鳥類エリア	65
(8) アジアゾーン建設	66
(9) アフリカゾーン建設	67
(10) 類人猿・モンキーエリアの整備	68
(11) ふれあいゾーン建設	69
(12) 動物科学館改修	70
(13) トイレ・授乳スペースの整備	71
(14) 野外ステージ建設	72
(15) コンビニエンスストア、カフェ、レストラン、ミュージアムショップの誘致	73
(16) 園内交通の整備	74
(17) 環境にやさしい施設への転換	75
(18) エントランス機能の充実	76
(19) 臨時駐車場の確保	77
(20) 飼育動物の考え方	78

項目名	役割	行動指針	実施時期
環境教育プログラムの策定	1	2	20年度

概要

円山動物園において実施する環境教育の様々な取組を体系的に整理し、より効果的に環境教育を推進していくためのプログラムを策定する。
 基本構想の基本理念「人と動物と環境の絆をつくる動物園」に基づき、「札幌の環境教育の拠点」としての役割を担う。

<これまでの展開事例>

- ・園内各イベント、動物病院における解説(動物の生息地の環境問題、地球温暖化の影響など)
- ・説明看板の設置(環境問題に併せ外来生物、飼育放棄、密猟、密輸など)
- ・総合学習の受入れ、動物園だよりの全校配布、飼育員の出前講座

<今後の展開事例>

- ・オオワシ、ニホンザリガニなどの「北海道の野生動物復元プロジェクト」における環境教育の実施
- ・施設リニューアルに伴い、自然エネルギーの活用や資源の循環など省エネルギーを実施し、動物、施設、メッセージをセットにした総合的な環境教育の実施

スケジュール

19年度 内部検討及び市民動物園会議への報告
 20年度 4月策定、運用開始

参考図表等

--

項目名	役割	行動指針	実施時期
アースデイの開催	1	1	19年度

概要

世界的な環境イベントであるアースデイ(地球のことを考え行動する日)イベントを、市民・企業・NPOなどと共同で開催し、地球環境を動物園から考えるきっかけづくりとする。

イベント名「Earthday Ezo 2007 in 円山動物園」

2007年(平成19年)から初めて、大通公園1丁目会場と円山動物園会場をオフィシャル会場として開催する。

地球は共にそこに暮らすみんなのものであり、動物と同じ目線で地球を考えようと円山動物園に集結。動物や自然、自然エネルギー、食べ物などをテーマにNPOや企業、学校など34団体が参加し、おもちゃ・子供服のフリーマーケットやクイズラリー、自然クラフト体験などを行う。

本来の生息域での環境問題のために絶滅の危機に瀕している園内の動物たちから、人間への環境メッセージを伝える。

スケジュール

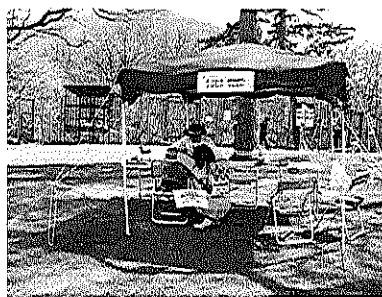
19年度実施済

<日時> 2007年(平成19年)4月22日(日) 9時30分～16時30分

参考図表等



正門付近



エゾシカの角を使った
クラフト体験



野外ステージでの
環境プログラム

項目名	役割	行動指針	実施時期
環境メッセージを伝える展示・看板・広報の充実	1	1	19年度

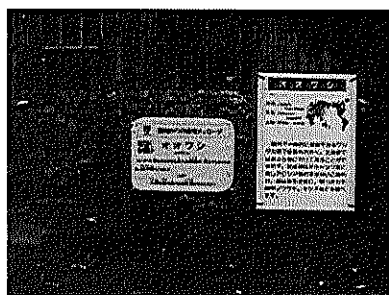
概要

動物達が抱える地球規模での環境問題については、これまでも各イベントや説明看板などで積極的に周知・啓発しているが、今後は各動物舎の説明看板、ドキドキ体験メニューにおける解説、動物園だより等の広報物のほか、これまでの取組をさらに拡充し、環境メッセージとして伝える。

スケジュール

19年度 内部検討、一部試行実施
 20年度 随時、本格実施及び再検討

参考図表等



オオワシの環境メッセージ



ライオンの環境メッセージ



ドキドキ体験での解説
 (ニホンザル)

項目名	役割	行動指針	実施時期
環境教育に携わる人材育成の拠点活動	1	1	19年度

概要

環境教育がめざす自ら考え環境に配慮した行動をできる人づくりを行うためには、リーダーとなる人材を育成することが鍵となることから、環境教育の意義への理解、資質の向上を図るために支援(拠点活動)を行う。

<展開事例>

- ・プロジェクトWILD、プロジェクトWET指導者講習会(研修場所の提供)
- ・ネイチャーゲーム指導者講習会(研修場所の提供)
- ・学生等の研修受け入れ(研修場所の提供、環境メッセージを伝える)
- ・環境教育教材の共同開発(環境教育の意義への理解)

スケジュール

19年度実施済

<主な開催日>

- ・プロジェクトWILD、プロジェクトWET指導者講習会/2007年(平成19年)9月29日(土)・30日(日)
- ・ネイチャーゲーム指導者講習会/2007年(平成19年)11月9日(金)～11日(日)

参考図表等

--

項目名	役割	行動指針	実施時期
園内動物病院プログラム	1	1	18年度

概要

日本初の公開型動物病院を活用した体験プログラムを実施する。
動物園で仕事をする獣医師の模擬体験を通して、動物の生命から地球環境まで幅広いテーマで環境教育を行う。

<体験内容>

1. 解説(20分)

動物病院・獣医師の役割/動物園の役割/機器類、薬品等の説明/治療中、入院中の動物の説明

2. 診察・治療体験(30分)

診察・検査体験(心電図検査/超音波検査/X線検査/糞便検査/採血/検卵/心臓音の聴診)

治療体験(対象動物に実際に必要な治療/マイクロチップ埋め込み/ぬいぐるみを使用した縫合術)

3. 吹き矢体験(15分)

ぬいぐるみに向かって麻酔用吹き矢体験を実施

4. 骨格標本の比較解説(10分)

骨格標本の解説/草食獣、肉食獣等の頭骨比較、食性、生態、進化について説明

スケジュール

2006年度(平成18年度) 小中高校生を対象に実施済

2007年度(平成19年度) 大人も対象に加え毎週土曜日に実施

参考図表等



園内動物病院



ぬいぐるみで吹き矢体験

項目名	役割	行動指針	実施時期
園内施設の環境教材化の取り組み	1	2	19年度

概要

園内施設の環境教材化の取り組みとして、以下の取組を行う。

- ・自然環境教育の教材として、園内の植栽を体系的に紹介した樹木マップを制作
- ・園内に自然エネルギーや資源循環型設備を導入し、園内で使用しているエネルギー利用方法を見直すことにより、環境負荷の軽減を図ることや、その成果をわかりやすく解説を加えて展示することで施設そのものを環境教材化することを目指す。


スケジュール

2007年度(平成19年度)
 9月 園内の主な樹木に樹名板を設置
 10月 樹木マップ(高木)を制作、ホームページ公開、動物園入口、動物園センターで配布

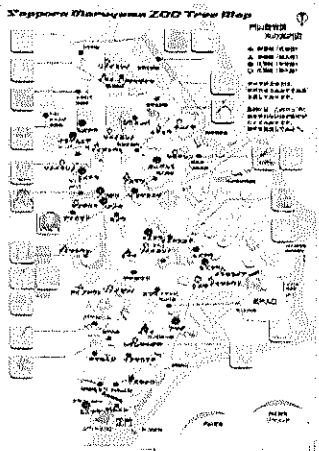
2008年度(平成20年度)～
 低木についても、樹名板の設置と低木マップの作成を行う

2009年度(平成21年度)～
 園内の自然エネルギー設備や資源循環型設備の設置に合わせて、環境負荷の軽減などの成果について解説などを整備し環境教材化を進める。

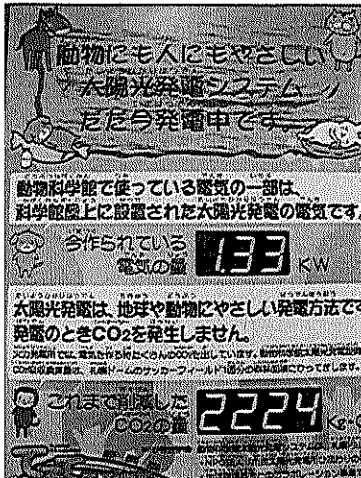
参考図表等



樹名板の設置



樹木マップ



動物科学館の太陽光発電

項目名	役割	行動指針	実施時期
環境を考えるイベントの実施	1	1	19年度

概要

北国ならではの雪を活用した自然エネルギーのPRを地球温暖化により絶滅に瀕している動物たちと絡めたイベントとして園内で展開する。

イベント名「真夏の雪まつり ～美唄から30トンの雪がやってくる！～」
 道内の企業や大学・行政らによる「美唄自然エネルギー研究会」が保管している雪を園内に運び込み、ホッキョクグマやアザラシの飼育スペースに展示するとともに、雪を活用した冷風機など自然エネルギー機器を展示する。あわせて札幌市の雪対策の取り組みを紹介することで、来園者に環境と自然エネルギーを考えるきっかけづくりを行う。
 当日は美唄市の物産展やボランティア制作によるスノーキャンドル等でイベント自体を盛り上げる。

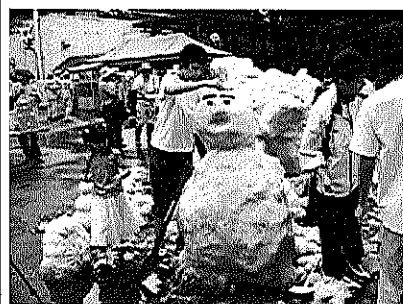
- 【主催】 美唄自然エネルギー研究会、美唄市、円山動物園
- 【共催】 美唄観光物産協会
- 【協力】 社団法人札幌青年会議所

スケジュール

19年度実施済

<日時> 2007年(平成19年)8月11日(土) 9時～21時(夜の動物園開催日)

参考図表等



地元中学生によるボランティア



雪に囲まれるホッキョクグマ



スノーキャンドルづくり

項目名	役割	行動指針	実施時期
遊びながら環境教育につながる教材の活用	1	2	18年度

概要

園内のイベントにおいては、環境NPOが開発した環境教材を用いた環境教育遊びの実践や環境教育プログラムの一環としてプロジェクトWILD、プロジェクトWET、ネイチャーゲームなどの積極的活用を図る。

イベント名「サンデーセミナー ヒグマカルタ」(NPOが開発した教材の活用)

親子でヒグマカルタで遊び、クイズや実際にヒグマを観察しながら解説を聞きヒグマの生態、習性について知るとともに、野生動物との係わりについて理解を深めてもらう。

イベント名「環境教育ワークショップ」(公式環境プログラムの活用)

プロジェクトWILD、プロジェクトWETのエデュケーター(指導者)資格のある職員のもと、環境教育プログラムを園内で実践する。

スケジュール

2006年度(平成18年度)実施済

・ヒグマカルタ:2007年1月

2007年度(平成19年度)実施済

・プロジェクトWILD、プロジェクトWETエデュケーター養成講習会:2007年9月

・ネイチャーゲームリーダー養成講習会:2007年11月

・プロジェクトWILDを活用した環境教育プログラムの実施(こども動物園):2007年11月～

・ヒグマカルタ:2008年1月

参考図表等

--

項目名	役割	行動指針	実施時期
円山レッドデータの編さん	1	2	19年度

概要

円山動物園が飼育・展示する希少動物(絶滅危惧種)のうち、現在、絶滅の危機に陥っている動物に関してリストアップし、その生息域で起こっている地球環境の変化や絶滅危惧種に指定された理由、一人ひとりが行動すべき環境のための取組をメッセージとして伝える。
提供方法としては、レッドデータのWeb掲載、各種媒体への情報提供・データ活用を行う。

スケジュール

2007年度(平成19年度) データ作成
2008年度(平成20年度) 看板の製作、レッドデータのWeb掲載、各種媒体への情報提供・データ活用

参考図表等



ホッキョクグマ(ピリカとララ)

<レッドデータの一例(ホッキョクグマ)>

地球温暖化の影響で、北極圏の平均気温は20世紀(100年間)で5度も上昇し、北極の海水は約40%も減少したといわれています。
北極圏の気温が上がると、氷の溶ける時期が早まるため、氷上でアザラシを捕らえているホッキョクグマにとって、主食のアザラシを食べる機会が少なくなります。
そのため、北極圏の暮らしに適したホッキョクグマは温暖化が進むと生きていけません。

項目名	役割	行動指針	実施時期
展示評価方法(円山評価法)の確立	1	2	19年度

概要

円山動物園では「何らかのメッセージを伝えるために動物を飼育・展示する」という考えのもと、展示方法や体験イベントにおいて環境メッセージやいのちの大切さを伝えている。その際に、動物園が伝えたいメッセージがお客様に正しく伝わっているかを検証する展示評価方法が必要なためこれを確立する。また、常に評価に基づいて展示の改善をするために「企画→実施→評価→改善」のマネジメント・サイクルを導入する。これらを国内の動物園に先駆け「円山評価法」として確立する。

<具体的な取組方法>

「みんなのドキドキ体験」実施時に参加者に簡単なアンケートを実施、本来伝えたいメッセージが伝わっているかを検証する。

スケジュール

2007年度(平成19年度) 内部検討、一部試行実施
2008年度(平成20年度) 4月策定、本格運用開始

参考図表等

--